

【編集後記】

巻頭は、西北大学の普慧教授の論文である。西北大学は西安にあり、東には華山、南には終南山や太白山といった洞天福地がある。本誌でも第2号に華山と終南山の報告を載せた。こうした現地調査で西安を訪れ、普慧教授とはたびたび意見交換をした。本論は、巫鬼信仰の発展と六朝志怪小説への影響を論じている。六朝志怪小説には洞天思想も影響しており、両者の知的ベースの共通性が気になるところである。

南京大学の趙益教授は、六朝道教と文学の関係を研究しており、中華書局の道教典籍選刊で『真誥』を出している。本研究では、趙益教授の協力を得て、2013年3月に南京大学でミニシンポを開催した。これは本誌第4号に報告を載せた。本論は、『真誥』にみえる洞天思想を分析したもので、従来は洞天思想のいくつかの側面とされていた事柄を思想史的に腑分けしており、非常に啓発的である。廣瀬直記氏の訳文により、その重要ポイントがよく理解できる。

山下論文は、王屋山の現地調査で得た知見を文献的に検討したもの。王屋山は第一大洞天だが、民間信仰も多くおこなわれており、山下氏は本誌第3号で王屋山の無生老母信仰について紹介している。この件は、本誌102頁以下でも言及している。土屋論文は、道教の文字説に関わる資料の検討と考察である。本論と95頁以降に載せる仏文のエッセイは、文字説の考察の基本的な部分で重なっており、論文の方はそれを発展させたものとも言える。鈴木報告は、2012年夏の南岳衡山と羅浮山での調査のうち、後者を扱っている。羅浮山については、本誌第4号に志賀市子氏の論文もある。最後は、2014年3月に開催した日仏中国宗教研究者会議の報告である。

編集にあたり、一部分の原稿を筑波大学の丸山宏教授に一読いただいた。制作には古賀弘幸氏の御協力をいただいた。以上記して感謝を申し上げます。(MT)

洞天福地研究（どうてんふくちけんきゅう）第5号
ISSN 2186-182X

発行日：2014年3月28日

編集：専修大学土屋昌明研究室内 洞天福地研究編集委員会
〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区三田 2-1-1
専修大学 9603 the0561@isc.senshu-u.ac.jp

制作：古賀弘幸

発行人：尾方敏裕

発行所：株式会社好文出版

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 540 林ビル 3F
TEL03-5273-2739 FAX03-5273-2740

<http://www.kohbun.co.jp/>

印刷・製本：音羽印刷株式会社